

固有種を守る悲恋の木

文と写真・万由・ブラウン（ナチュラリスト）



ハワイ火山国立公園（アメリカ合衆国）1987年自然遺産登録。ハワイ火山国立公園にあるキラウエア火山とマウナ・ロア火山の二つが世界遺産に登録され、火山学上の調査や研究にとって理想的な場所となっている。火口から流出した溶岩が海で急激に冷やされて時間をかけて陸になるため、現在もハワイ島は拡大を続けている。

ハワイ島は火山が作り出した島。パワフルな火の女神ペレが君臨する島です。ペレにまつわる悲恋の木、オヒアレファアをご存知ですか。「恋人レファア以外見向きもしない若者オヒアをペレはしつとに狂い焼き殺した。オヒアがその後樹木となり、嘆き悲しんで死んだレファアの化身が花となった」という伝説の残る木です。

オヒアの樹は非常に生命力が強く、海拔0メートルから2400メートル以上の標高まで生育でき、溶岩が焼きつくした大地でも、負けずに芽生える最初の植物といわれています。そんな生

命力をハワイアンは敬い語り継ぎ、踊りのレイにもレファの花を摘んで、ペレに捧げてきたのでしょうか。

世界遺産ハワイ

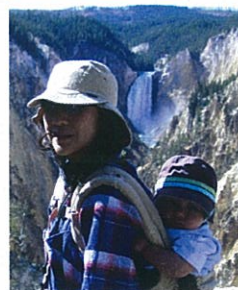
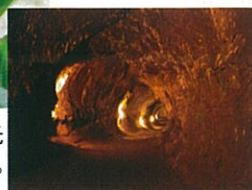
火山国立公園には、かつて溶岩が流れ、冷えて固まった場所がトンネル状になっているラバーチューブがあります。そこでは、高くそびえ立つシダに交じり、灰緑色の老婆のような姿のオヒアがどっしりと、かつて溶岩が流れた地に根を下ろしている姿を見ることが出来ます。ハワイの固有種、イイウイヤアパネなどのミツスイ鳥がジャングルに美しいさえずりを響かせながら真つ赤なレファアのミツを吸いにくるのを目にすることが出来ます。

ハワイでは外来種の影響で多くの在来種が危機にひんしています。ハワイの花と思われている植物の大半は外来種。そんな中、ハワイの固有種オヒアの木を頼りに生きているものがたくさんいるのです。オヒアの木を見つけてみてください。そして火山「ペレ」とハワイアン、そして生き物たちとのつながりに思いをはせるのはいかがでしょうか？

悲恋物語の主人公、ハワイ島の在来種オヒアレファアの真つ赤な花



ハワイ島ジャングルの足元を無数にはうらバーチューブ。溶岩の跡が観察できる



まゆ・ぶらうん アメリカ在住。日本の都市公園にて長年勤務、動植物や住民参加の小冊子等作成、講師としても活躍。現在、イエローストーン生態系専門の通訳、植物に関する冊子を執筆中。また、日本とアメリカの文化、自然観の違いなどを中心につれづれの出来事や思いをブログで展開。
<http://tinbraun2.exblog.jp/www.national-park-tours.com>